

## バイオマス利活用の取組状況について

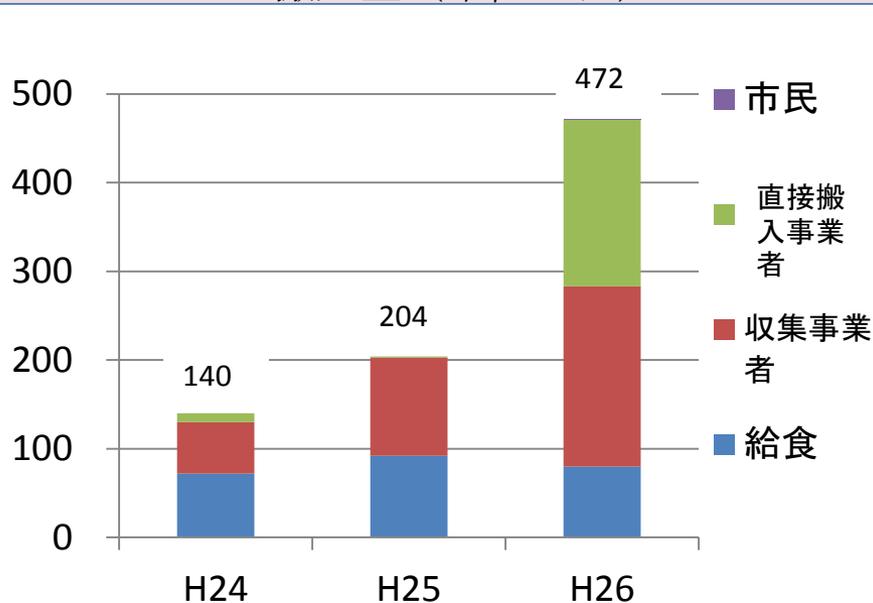
- 1 完熟堆肥化センターにおける試行結果及び今後の取組
- 2 緑のリサイクルセンターにおける試行結果及び今後の取組



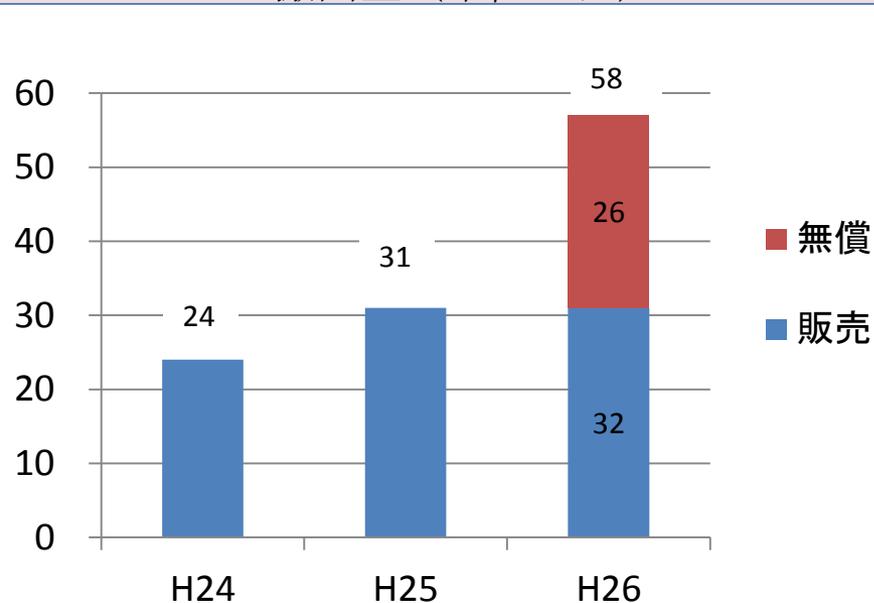
# 1 完熟堆肥化センター

## 1-1 試行結果(4月~12月)

搬入量 (単位: トン)



搬出量 (単位: トン)



搬入量: 前年同期の2.3倍

H25年度: 0.9トン/日 H26年度: 2.0トン/日  
直接搬入する食品事業者の増加が顕著

搬出量: 前年同期の1.8倍

(販売は微増。無償=かんきょう庵の完熟畑での使用やイベント時での無償提供)

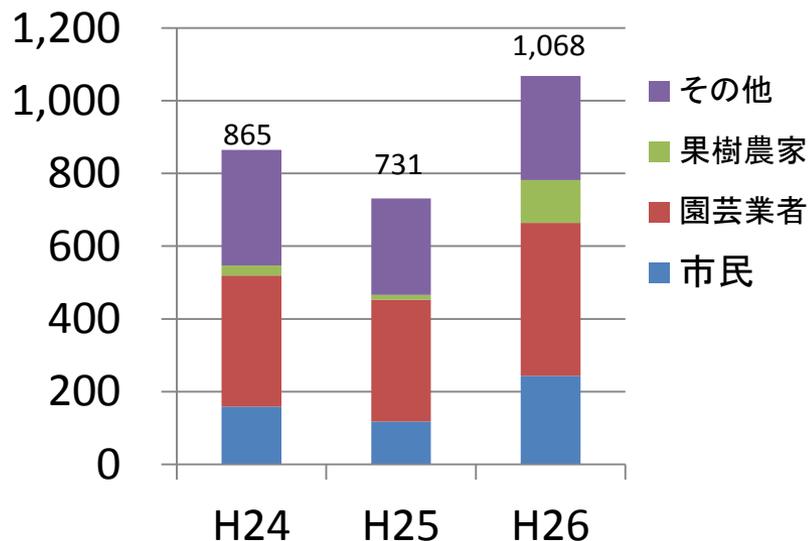
### 課題

- ・搬入量はH26年度の目標とした500t/年をクリアする見込みだが、施設能力量1,470t/年には達していない。
- ・エコ堆肥の販路開拓(ホームセンター等での販売)が進んでいない。
- ・生ごみも大切な資源という考え方がまだまだ市民へ伝わっていない。

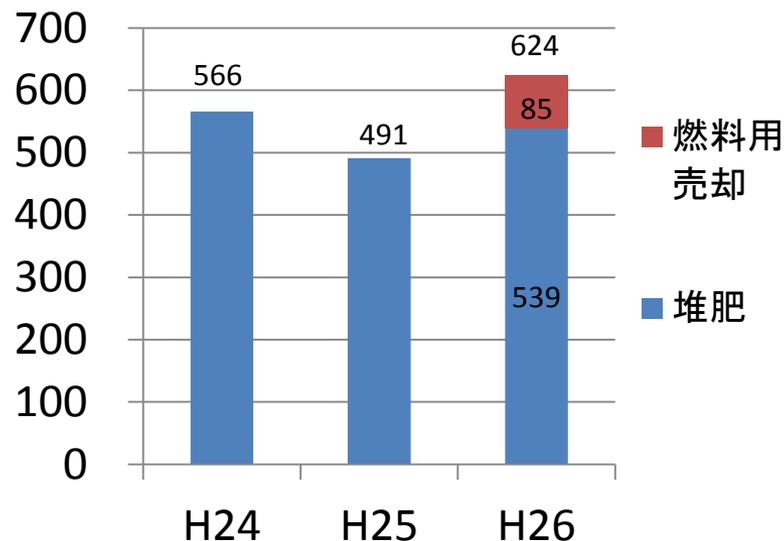
## 2 緑のリサイクルセンター

### 2-1 試行結果(4月~12月)

搬入量 (単位: トン)



搬出量 (単位: トン)



搬入量：前年同期の1.5倍、前々年の1.2倍  
大島果樹農家の伸びが顕著  
目標数量の900トンをすでにオーバー

搬出量：前年同期の1.3倍(堆肥だけでは1.1倍)

### 課題

- ・春先、一時的に場内でのストック場所が不足する時期もあった。
- ・堆肥の利用がほぼ横ばいの状態で、大幅な伸びは無い。安定的な利用先・利用方法の拡大が必要。
- ・市民の反響は大きかった。反面、初めて施設を利用する市民への対応など、サービスとして不十分な面があった。

### 3 把握された課題への対応

	課題	対応（実施済み）	対応（実施予定）
完熟堆肥化センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬入量はH26年度の目標とした500 t／年をクリアする見込みだが、施設能力量1,470 t／年には達していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業系一般廃棄物について、収集業者の協力により、新規に搬入を始めた業者が数社あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業系一般廃棄物について、更に新規搬入者の開拓に取り組む。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコ堆肥の販路開拓（ホームセンター等での販売）が進んでいない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、木質ペレットを取り扱っているホームセンターや、生ごみを搬入しているスーパーを中心に堆肥の販路開拓に取り組む。</li> <li>農家での更なる活用を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生ごみも大切な資源という考え方がまだまだ市民へ伝わっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かんきょう庵の畑で堆肥を使用して野菜を栽培し、イベントの食材として利用したり、販売することで市民へのPRを図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かんきょう庵で完熟堆肥を使用した野菜の朝市を開催するなど、更なるPRを図る。</li> </ul>

### 3 把握された課題への対応

	課題	対応（実施済み）	対応（実施予定）
緑のリサイクルセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春先、一時的に場内でのストック場所が不足する時期があった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃センターのストックヤードの活用を検討する。</li> <li>・センターの処理能力（年間900t）を超える分は、完熟堆肥センターの水分調整材や、ペレットの原料、薪、バイオマス発電等の燃料としての活用を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥の利用がほぼ横ばいの状態で、大幅な伸びは無い。安定的な利用先・利用方法の拡大が必要。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌改良材としての利用を中心に新規利用先の開拓を図る。</li> <li>・広報紙、新聞などで、市民への周知を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の反響は大きかった。反面、初めて施設を利用する市民への対応など、サービスとして不十分な面があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター入口に看板を設置し、初めての方でも利用の流れがわかるよう改善を図った。</li> </ul>	

## 4 前回の会議でいただいた御意見

	御意見	対応（実施済み）	対応（実施予定）
堆肥・BDF	<ul style="list-style-type: none"> <li>生ごみの分別は容器でなく袋で行い、収集車の空きスペースに積んで、堆肥化センターで降ろした後、他のごみは清掃センターへ搬入するのが一番効率的でないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆肥化センターの受入れ態勢を強化し、袋に入った生ごみをプラットフォームで受け取る方式に変更することで、搬入者の負担軽減を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>更に御意見をいただき、対応策を検討する。</li> </ul>
木質バイオマス	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマスタウン構想が市民に浸透していない。</li> <li>出雲崎町のように、少額ではあっても間伐材の運賃に対する独自の補助制度を設けるなどの支援がないと材の搬出は難しい。</li> <li>木質ペレット製造が間伐材の受け皿としての役割を果たすには、運賃補助などの支援がないとコスト的に見合わず結果的に他の材を使わざるを得ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報さんじょう6月1号にバイオマステ集を掲載し、周知した。</li> <li>かんきょう庵でペレットストーブの温もりを感じられるようなイベントを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間伐材の収集から集積までの一貫した体制の構築も視野に入れ、木質バイオマス発電導入に向けた検討を進めることで、林業の振興を図る。</li> </ul>

## 4 前回の会議でいただいた御意見

	御意見	対応（実施済み）	対応（実施予定）
木質バイオマス	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 農業用の加温器向けに特化すれば、せん定枝をペレット燃料化して利用することもできるのではないか。</li><li>・ 薪とペレットはユーザーの棲み分けがされている。そうした潜在需要のバランスについて調査を行う必要があるのではないか。</li><li>・ 三つの柱の取組を横断的につなげることで、各バイオマスの出口が増えるのではないか。</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 緑のリサイクルセンターにおける堆肥化余剰分のせん定枝について、農家用加温器向けのペレットとしての燃料化を検討する。</li></ul>